

マーキュリーに学べ

校長 鈴木 恵一

『啓流』の目次に校歌が載っています。私は啓北の卒業生ではないのですが、25年も前から啓北に関わってきたせいか、この校歌を自分の応援歌だと思い込むまでになりました。

作詞は初代校長の朝倉和夫先生です。ふと思い立ち『啓流』第一号の巻頭言を読み、朝倉校長先生の校歌に託した思いに触れ、思わず「誠の道に励まん！」と呟いた私です。

わが象徴のマーキュリー（ギリシャ神話の「ヘルメス」、ローマ神話の「メルクリウス」）は、現代では商業神として一般化されていますが、神話の世界におけるマーキュリーの属性は「商人・旅人・使者」の三つなのだそうです。商人は陸路、海路を使って商品を運ぶ行商（旅人）であると同時に、訪れた地域の情報を収集し、それをさらに様々な地域に情報提供する使者でもあったのです。古代から情報は重んじられ、情報を適切にマネジメントすることによって社会に秩序と繁栄がもたらされると言われていました。

この考えは現代のあらゆる分野において普遍的な価値を持っています。適切な情報なしには社会や組織の活動も私たち個人の生活も立ち行かなくなるでしょう。紀元前 1500 年の神話のなかでつくられたキャラクターとはいえ、知に長け聡明にして雄弁、異邦の空を雄飛する行動力あるマーキュリーは情報の使者であり、現代人にも求められる要素を兼ね備えているともいえます。

翻って、現代に生きる私たちは情報とどう向き合っているでしょ

う。SPH で学んできたように、情報そのものは情報所有者の力量に左右されることが多く、具体的には認識力や分析力、判断力などによって、価値あるものになったり、まったく無意味なものになったりと、情報自体の価値は不確実性が大きいのです。それでも私たちは日々情報を処理し、より確実性の高い行動へ繋げたり、新たな価値を生み出して未来へと繋げていかなければなりません。価値は価値を見出そうとする者の中に宿ります。

『校長つうしん Mercury』や全校集会で言い続けてきたことがあります。「迷ったり悩んだときは原点に立ち返り、問いを立てよ」「人はなぜ学び続けなければならないのか」「人はなぜ働かなければならないのか」と。

答えはあなた自身の中にあります。それはあなたの人生をかけて導き出さなければならないことです。書を読み、人の話に耳を傾け、それを自己の身の内側に刻み込み、自分の中で消化し栄養にして、自分のことばで語ることです。あなたの言葉が未来をつくります。学びは人生の確実性を高めます。学校は確実性を高めるための意味ある学びの場ですが完璧ではありません。だから、学校を離れても、どうか学び続けてください。どうかあなたのことばで語り続けてください。

誠の道に励まん。